

CO・OP

京都の生協

2019/January/No. 97
京都府生活協同組合連合会



伝統の^{ちまき}粽を守りながら考える、京のまちとくらしの未来
——丁寧な仕事から見えてくる大切なこと——

TalkTalk トークとーく

◆「御粽司川端道喜」代表

◆京都府生活協同組合連合会 会長理事

かわ ばた ち か こ
川 端 知 嘉 子 さん
かみ かけ とし ひろ
上 掛 利 博

対談

TalkTalk トークとーく



伝統の粽を守りながら考える、京のまちとくらしの未来 ——丁寧な仕事から見えてくる大切なこと——

「御粽 司 川端 道喜」代表 川端 知嘉子 さん
京都府生活協同組合連合会 会長理事
 (京都府立大学公共政策学部教授)
 上掛 利博

京都には有名な和菓子がいっぱいありますが、そのなかでも「川端道喜」の粽や生菓子は、なかなか手に入らないことで知られています。でも、それは気取りとかではなく、質の良い材料を使って、丁寧に手を動かし、おいしいお菓子をつくりたいという想いを大切にすると、少量生産にならざるを得ないのだということが、今回のお話でよくわかりました。そういう姿勢が、経済発展を効率的に追い求める今日の社会や、ネットの情報や世間の評判に流されがちな人びとのなかにあつて、五百年を超える伝統を守りながら、京のまちの本物の文化を育んできたのではないかと思えます。

なぜ葛の粽が生まれたか

上掛 川端道喜といえは、笹の葉で巻かれた細長い粽が何本も束ねられた独特の形状で知られています。なぜ、あの形なのでしょう。

川端 昔から各地で作られていた米粉を使った団子粽は、茅や菖蒲の細い葉に包んだので、細長いおにぎりのような

形をしていたものが多く、「茅巻き」とも書かれました。それが、応仁の乱の後、天皇さんが召し上がるものにも窮しておられることを知った吉野の国栖族が、御所に葛を献上しましたので、その葛粉を食べるものに調製してほしいとの依頼が、初代道喜に来たんで

すね。葛は、消化がよくて身体を温めてくれるありがたいものですが、炊くと軟らかくなる性質があるので、どろっと流れてしまいます。それで、もっと幅の広い葉で包まないといけないということで、初代の道喜が熊笹を使うことを考案し、現在のような形になりました。それに笹には抗菌作用もあります。

御所を支えた京町衆

C/O/N/T/E/N/T/S

トークとーく対談

伝統の粽を守りながら考える、
京のまちとくらしの未来

～広告・表示の落とし穴について考えよう～ 開催…… 8
 第18回 京都府協同組合 役職員体験・交流学校…… 9
 漁民の森づくりに係る育樹活動に参加…… 9

●GPセンター(鶏卵の選別包装施設)現地検査に同行…… 11
 ●京都発! 食とみどりのサイエンスNow…… 11
 ●京都環境フェスティバル2018…… 11

TOPICS

綾部市総合運動公園を主会場に京都府総合防災訓練…… 7
 平成30年度 関西広域応援訓練(図上訓練)に参加…… 7
 MCA無線(防災無線)訓練を実施…… 7
 コープ御所南ビルで防災訓練…… 7
 日本生協連から京都府へ義援金が寄付されました…… 7
 2018年度京都消費者問題セミナー
 「本当にいいの? クリックする前に確認を!

●第30回近畿地区生協・行政合同会議…… 10
 ●きょうされん第41回全国大会in京都…… 10
 ●京都の生協 理事長懇談会…… 10
 ●京都の生協活動功労者表彰式…… 10
 ●京都府生協連 理事・監事研修会…… 11
 ●食育シンポジウム…… 11
 ●鳥取県産直フォーラムin京都…… 11

会員生協トップインタビュー VOL.7
 生活協同組合コープ自然派京都…… 12
 京都府生協連 第28回
 「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」…… 14
 おもな行事のお知らせ…… 14
 年賀状…… 14



「御禮司」川端道喜 代表
川端知嘉子さん



京都府生活協同組合連合会 会長理事
(京都府立大学公共政策学部教授)
上掛利博

上掛 川端道喜は、室町時代から明治の東京遷都の時まで、毎日、天皇さんに粽や餅を届けたことで知られていますが、創業はいつの頃になりますか。

川端 室町幕府公認の商人たちで構成する「座」のうち、「餅座」の権利を道喜が得たのが1512年ですから、創業はそれ以前の1502年頃ではないかといわれています。

いまの政治と違って、室町時代の御所の政では儀式がとても重要で、儀式とお餅は切り離せない関係にありましたから、道喜は、応仁の乱のずっと前から内裏にお餅を納めていたようで、川端家に伝わる古文書には、召し上がりものの他に儀式用のお餅を納めた記録が残っています。

加えて、応仁の乱の後、御所は荒れ果て、幕府も弱体化して朝廷を支える力がなく、

天皇さんは食べるものにも困っておられたので、道喜が「御朝物」と呼ばれる、天皇さんが召し上がる朝食用のお餅を庭先まで届けていたようです。川端家の歴史を綴った『家の鏡』という絵巻物には、その場面が出てきます。

そういう状況ですので、御所の近くに住まう6つの町の衆が、御所の警護やお掃除などのお世話をするようになります。その人たちは「六丁衆」と呼ばれました。道喜がその長を務めていたようです。

上掛 そうすると当時、お店は御所の近くにあったのですか。
川端 そうですね。御所の傍に川が流れていて、その川沿いに店を構えていたので「川端の道喜」と呼ばれるようになり、家名も「渡邊」から「川端」に変えたようです。

もともと源融みなもとのとむらの子孫の渡邊綱わたなべのつなの末裔の渡邊進が

餅屋を創業して、その娘婿が初代の道喜を名乗りました。

上掛 そうした内裏との深いつながりの証しとして、いまも御所には、建礼門の東に「道喜門」が残っています。

川端 道喜専用の通用門です。織田信長や徳川幕府が朝廷を援助するようになってからの御朝物は、代々の天皇さんが、困窮されたご先祖さんを偲ばれる「朝餉あさぐいの儀」という儀式になり、道喜が献上したお餅は箸をつけずごらんになるだけになったということです。その習慣は東京遷都の前日の朝まで350年余り続きました。

※源融みなもとのとむら
平安時代初期から前期にかけての貴族。嵯峨天皇の皇子（嵯峨第十二源氏）。

※渡邊綱わたなべのつな
平安時代中期の武将。頼光四天王の一人。渡邊氏の祖。

京町衆と天皇の関係

上掛 明治になり、天皇に従って東京へ移り住んだ商業者も多いようですが、道喜は京都に残りましたね。

川端 ずっと御所にご奉仕してききましたので、東京に来るようになると再三お誘いはあったようですが、十二代の道喜

は、東京宮内省大膳職に儀式用のお餅の作り方や盛りつけ方をお教えるために上京しましたが、「水が合わん」と言って帰ってきたそうです。私が思いますに、道喜は御

所の御用だけをしていただけではないんですね。京都には、長年の文化を支えてきた、腕のいい職人さんがたくさんいらっしゃるし、特に「六丁衆」は、御所のご用で、たとえば畳屋さんの手が足りないときには餅屋の道喜も畳換えを手伝うというように、六丁衆のみんなで支え合い、御所の用事や京都のものづくりを担っていました。それを途中でやめて、お公家さんと一緒に東京へ行ってしまったら、京都がゴーストタウンみたいになりま

すから、六丁衆の長である道喜としては東京へ行くわけにはいかなかったのではないかと。それを十二代はさらっと「水が合わん」と言ったわけで、むしろ格好いいと思います。

上掛 そう考えると、町衆と御所の関係はおもしろいですね。京都の人は、秀吉を「太閤」、信長を「信長公」と

呼びますが、天皇は「天皇さん」と呼びますよね。

川端 そこには京都の歴史から生まれた独特の関係性があるのかもしれない。いまは天皇といえれば近寄りがない存在で、東京のみなさんは「天皇陛下」とおっしゃいますけれど、昔は天皇さんと町衆

道喜と千利休

上掛 道喜は、千利休とも深いつながりがあったと聞いています。

川端 初代道喜と利休さんは、ともに茶人の武野紹鷗の弟子で、お互いかなりの信頼関係があったようです。たとえば秀吉を招いた有名な「朝顔の茶会」のことを、利休さんは初代道喜に報告しています、そうした2人の間の手紙がいくつが残っています。

が、御所の中でお月見や蹴鞠やお能と一緒に楽しむなどして、もっと親しい関係だったようです。だからなのか、京都の人は天皇さんをあまりまつり上げませんね。いまは、周囲が天皇さんを近寄りがない存在にしているだけではないかと思っています。

また、利休さんは晩年に茶事を100回なさっていて、それを記録した『利休百会記』には、ある日の茶会に、初代道喜と織田信長の下で京都所司代役を務めていた村井長門守貞勝が招かれたことが載っています。

これについて当家の十五代は、自著『和菓子の京都』（岩波新書、1990年）のなかで、信長が足利將軍への見せしめに「上京焼討ち」をしようにとしたとき、初代の道喜が六丁の長として、「御所と六丁は焼かないように」と交渉をしたのではないかと書いています。おそらく、その交渉の場が『利休百会記』に出てくる茶事で、利休さんが道喜

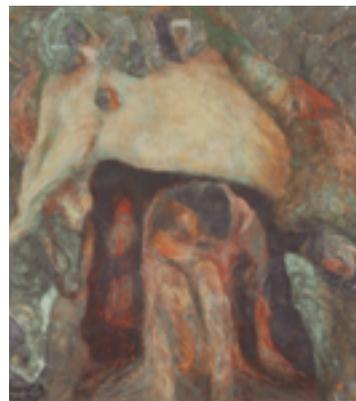
を信長の代理たる村井貞勝に引き合わせたのではないかと、私は推測しています。道喜は、

町衆の代表として、京のまちを焼討ちから守ろうとしたのではないのでしょうか。

道喜の粽の危機

上掛 ところで、知嘉子さんは、もともと絵を描いていらした方？

川端 日本画をやっていました。父も画家で、お世話になった方に、道喜の粽をお届けして



池田知嘉子「マザーツリー 時間の証明」(第45回創画展2018)

ましたから、私は高校を卒業するころまで、その粽を自転車で上賀茂の道喜のお店に取りに行く役目でした。その後、私が神戸の大学に絵を教える行けたためバスを待っていると、それがちょうど今のお店の前で、上賀茂のあと大原から北山に引越してきた道喜のお母さん、つまり後に義母となる人が引越しの荷解きを一所懸命にしていたので、思わず「何か召し上がるものでもお持ちしますね」と声をかけたのが縁なのか、十六代と結婚することになりました。

と絵を描いていたらしいからね」と言っていたのですが、彼は45歳で亡くなってしまいましたが、道喜の伝統を絶やすわけにはまいりませんから、次代のために技術だけは覚えることにしました。

ところが、折悪しく、夫が亡くなった翌年ころから、粽を巻くのに使っていた香りのよい京都の北山の笹がとれなくなってしまう。笹は竹と同じく60年程の周期で枯れますし、しかも北山では、ニホンオオカミの絶滅によるシカの増加で笹の新芽が食べ尽くされ、香りのよい笹が手に

結婚したとき、夫は「ずっと





入りにくくなったのです。です。いまも粽は本当に少量しか作れません。高島屋さんや大丸さんで週末に少し販売する以外は、すべて予約で提供させていただいています。

伝統の継承と、それを支える人のつながり

上掛 そういうなかで道喜の伝統を受け継ぎ、守るというのは大変だったでしょう。

川端 夫が亡くなったとき、長男は中学に入学する直前で、娘は小学1年生でしたから、子どもが成長して「店を継ぎたい」と思ったときのために私が技術を継いでおかなければと思います、日本画はいったん横において、義母に店の仕事を習うことにしました。ところが、しばらくして義母も倒れてしまったんですね。ですから、技術を継承するという意味でも、経営という意味でも

べていけませんので、生菓子をもっと作ろうという提案は時宜に当たっていたのです。月に何度か作るようになる生菓子作りの腕も上がり、お客様からお褒めの言葉もいただくようになりました。

とはいえ、私が店に入ったころはまだまだ手際が悪く、たとえば1月の「御菱葩わんしはなびら」を作るときなど、裏千家さんが朝7時に取りに来られるので、ほとんど夜通しの作業が1カ月ぐらい続くのです。でも、2人の青年は後期試験と重なったにもかかわらず、ちゃんと仕事に付き合ってくれました。それで、「いつ寝てるの？」と尋ねると「試験のとき寝てます」と、あっけらかん（笑）。学生バイトは長くて4年で交代ですが、彼らは卒業後もロックバンドの活動を続けながら十年ぐらい勤めてくれ、いまも交流があります。

現在は、夫のいとこが手伝ってくれて、とても助かっています。長いお付き合いのお客さまも、ずっと見守ってくださいました。私は、そういう人びとの縁に本当に恵まれています。

浮足立つ京都

上掛 知嘉子さんは岩波書店の『図書』（2018年5月号）に書かれたエッセイで、

「京都の文化は、京都風ではないけなしいし、といって先に『京都』という先入観をもって創られたものも、うすつぱらくなるように思う。…心と手と五感を研ぎ澄まして磨かれてきた技で創られた本物、それを

感受し、美や質を判断する審美眼を持つ者が…切磋琢磨して創り上げてきた」のが京都の文化だったのではと指摘され

ていて、なるほどと思いました。

川端 本当に京都を好きな、洗練された美意識や感覚をお持ちの方は、「もう京都はいいわ」と言って離れつつありますから、放置していたら大変な事態になるのではないかと危惧しています。

たとえば、心から着物を愛してこられた方は、冬なのに浴衣のようなペラペラの着物を着せられて歩く若い人たちを見て、がっかりされているのではないのでしょうか。食にしても、いまのように情報があふれていないころ、有名ではないけれど小さなお店の奥で年配のご夫婦が2人で懸命に手を動かして、とても質の良い美味しいお菓子を作っておられる、そんなお店が京都のそこそこにありました。そういうお店が消える一方で、ブームに乗って規模を拡大しているお店もあります。テレビやネット上で、「いま京都で話題のお店」と評判になれば、どんどん売れていく。そういう事態が、食でも衣でも進めば、京のまちは



安っぽいテーマパークと化すのではないでしようか。

今、観光の人であふれていますが、そのなかで失われていくものがあります。行政や事業者

の方は、押し寄せる観光客の数に浮かれて、大事なものの本物を見失ってはいけないのではないでしようか。私たち市民も、テレビやネットの情報に頼りきる

のではなく、自分の感性を磨く努力も大切なのではないか。そうでないと東京遷都の時よりも危うい、そんなことを強く思います。

一人ひとりの個性とまちの伝統が、 ともに大切にされる未来

上掛 「六人衆」とも重なりますが、協同組合の「協」という字は「多くの力を合わせる」という意味です。今日的に言うとは、多様性の尊重でしよう。生活協同組合にどんなことを期待されますか。

川端 若いころ公設市場に行くとは、威勢のいい掛け声や温かい裸電球の色合いですごく元気になったし、ヨーロッパの市場では曲がった野菜や大ききの違う果物が積むように売

られていて、旅行者だと知らず1つおまけしてくれたり、彼らと会話するだけで「人間どこも同じだなあ」と感じた経験があります。これらのお店は、単に物を売るだけではない役割を果たしていたんですね。

その点今の、日本のお店の多くは、清潔に個別包装された商品がお行儀よく並んで、単身世帯に便利な少量パック詰めの商品も豊富で、レジに並べば会話をしなくても支払いが済むし、とても便利です。



でも、昔の公設市場やヨーロッパの市場で感じた、ワクワクするような高揚感を感じることはできません。くらし方や生き方にしても、決められたコースを効率よく進

む人ばかりが評価されがちですけれど、一見「ムダ」にも見える寄り道で、大事な出会いがあったり、創造性を養えたりします。

ずいぶん昔に読んだ『エネルギーの征服―成熟と喪失の文明史』（新泉社、一九七九年）という本の訳者あとがきに、「いかなる技術革新も集団的な死の危機を内包している」という言葉が紹介されていました。そうならないように、効率優先ではなく多様な生き方を認め合えるような社会を、協同組合・生協さんには、ぜひ、めざしていただきたいなと思います。

上掛 私の父も、買い物に行った市場でお店の方と話をするのが楽しみで、そこから元気を得ていました。また、十七代目の道喜を継がれる安里人君と私の二男は小学校からの気の合う友達で、水泳が得意でなかった息子が

プールの時間を嫌がったとき、当時は泳げなかった安里人君が「別に泳がなくても、プールに入ったら気持ちいいやん」と誘ってくれたので助かったそうです。このようにゆとりのある対応のおかげで、今は泳げるようになりました。

多様な価値観を認めて、一人ひとりの想いや個性を大切にすること、京都の人びとが培ってきた伝統の奥深さ、丁寧なくらしをうまく重ねることで、よりよい未来が展望できるのかもしれません。協同組合が、こうした生活文化の向上の面でも、役割を果たすことができますと良いかと考えています。本日はありがとうございます。

(写真撮影：有田知行)



ご子息・安里人さん（左）と一緒に

プロフィール 川端 知嘉子 (かわばた ちかこ)氏

「御粽司 川端道喜」代表

●略歴

京都市生まれ。京都市立芸術大学日本画専攻科を卒業後、同校非常勤講師を経て、神戸山手女子短期大学（現：神戸山手短期大学）芸術科講師を務める。1986（昭和61）年、御粽司川端道喜十六代と結婚。

2000（平成12）年に十六代が病没した後は、画業を続けながら、義母より和菓子作りを習い、十六代代行として、粽や餅、菓子などの伝統的な製法の継承に取り組んでいる。創画会准会員。池田知嘉子名で画業をおこなっている。



綾部市総合運動公園を主会場に

京都府総合防災訓練

2018年9月2日(日)、綾部市総合運動公園を主会場に開催されました。

近年の局地的豪雨による水害と中丹地域で影響が大きい断層(三峠断層帯)による直下型地震との複合災害の発生を想定して訓練をおこなうことで、府民の防災意識の高揚を図り、被害の減少につなげることを目的に開催。

地震発生を受けて京都府生協連は、午前8時に京都生協の中丹支部にて、高取淳専務理事を本部長に災害対策本部

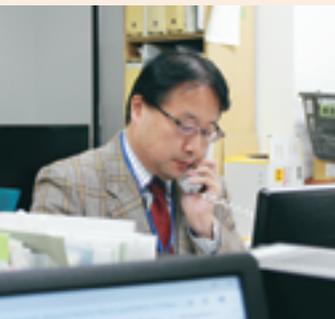


救援物資の輸送訓練



J A 京都グループと一緒に

を立ち上げ、京都府から要請のあった救援物資等の資材を配送トラックに積み込み、訓練会場に向かいました。京都府との間で締結している「災害時における応急対策物資供給等に関する協定書(1997年締結)」にもとづき、京都のJAグループとともに物資の輸送・配布訓練に参加しました。



図上訓練に参加する九鬼隆一事務局長

平成30年度 関西広域
応援訓練(図上訓練)に参加

2018年11月14日(水)、大規模災害時における応援・受援に関わる活動内容や手順の確認と課題の抽出をおこなうとともに、防災関係機関との連携強化を図る目的に、関西災害時物資供給協議会(※)を構成する関西広域連合による訓練が開催されました。

当日は南海トラフ地震により徳島市を中心に甚大な被害が発生という想定のもと、徳島県調達担当者からの緊急物資依頼を電話とメールで対応する訓練でした。

京都府生協連の事務所内で九鬼隆一事務局長が訓練に参加しました。

※ 関西災害時物資供給協議会

関西広域連合のもと、大規模災害時の実効性のある物資供給を実現するために、行政機関や民間団体、事業者等による連携・協力組織として、2017年1月12日(木)に設立され、京都府生協連も参画しています。

MCA無線(防災無線)
訓練を実施

2018年8月23日(木)と、11月27日(火)に震度6

強の地震が発生したものと想定して、日本生協連関西地連(大阪)と京都府生協連と会員生協間(京都生協)で通信訓練をおこないました。

発災時に非常用通信機器として設置しているMCA無線が正常に稼働できるか(送受信の電波状態・機器の不具合の有無など)について検証しました。

訓練は年4回開催しており、今年度は、2019年3月13日(水)を予定しています。

2019年1月17日(木)には、京都府生協連会員生協による相互連絡防災通信訓練を予定しています。

コープ御所南ビルで
防災訓練

2018年9月20日(木)、午前8時よりコープ御所南ビルに入っている京都生協コープ御所南、くらしと協同の研究所、京都府生協連、他のテナントの方がたと、25人の参加で訓練を実施しました。

コープ御所南ビルで火事が発生した想定で、避難の方法を確認しました。

日本生協連から京都府へ
義援金が寄付されました

日本生協連が、全国の会員生協から集まった義援金を、「平成30年7月豪雨」に対し災害救助法適用の府県のうち、自府県内被災者へ義援金を渡せる募金の枠組みとなっている10府県に寄付しました。

配分については、支援金を除いた金額を、消防庁発表(死者・行方不明者数、浸水家屋数等)の被害数値にもとづき配分され、京都府へも寄付されました。

2018年度京都消費者問題セミナー 「本当にいいの？ クリックする前に確認を！」 「広告・表示の落とし穴について考えよう」開催

2018年10月11日(木)、ハートピア京都で開催され、40人が参加しました。

消費者被害の事例と対策について広く啓発し、適格消費者団体の認知をはかることを目的に毎年開催しており、今年も12回目。京都府くらしの安心・安全推進月間事業として実施しました。

主催は、京都府、NPO法人コンシューマーズ京都、適格消費者団体NPO法人京都消費者契約ネットワーク(KCCN)、特定適格消費者団体NPO法人消費者支援機構関西(KC's)、京都生協、京都府生協連で、京都市の後援事業。



JARO関西事務所・武田典子さん

をしながら、消費者はどのような点に注意したらよいかについて、わかりやすくお話いただきました。

つづいてKCCN事務局・森貞涼弁護士と、KC's被害回復検討委員・伊吹健人弁護士から、それぞれ適格消費者団体、特定適格消費者団体



KCCN事務局・森貞涼弁護士

KC's・西島秀向氏が司会進行、公益社団法人日本広告審査機構(JARO)関西事務所・武田典子さんによる講演がありました。広告・表示についてのさまざまな相談を受ける機関であるJAROより、JAROの審査プロセスや最近の広告・表示の傾向など、実際の事例ケースの紹介



KC's被害回復検討委員・伊吹健人弁護士

の活動報告がありました。参加者からは「広告や表示をみると、リテラシーは大切だと改めて思った」「被害回復してくれる消費者団体があることがわかった」などの感想が寄せられました。



熱心に講演を聞く参加者

「ヒバクシャ国際署名を大きくひろげる京都の会」街頭宣伝活動

2018年9月26日(水)、国連が定めた「核兵器廃絶国際デー」にあわせて、署名・宣伝活動がおこなわれました。四条烏丸付近で被爆者をはじめ19人が参加し、署名への協力を呼びかけました。海外からの観光客も呼びかけに快く応えてくれました。

京都府生協連から九鬼隆一事務局長、川端浩子事務局担当が参加しました。



署名をお願いします

ついで」をテーマに開催されました。

京都府農林水産部食の安心・安全推進課・伊藤利夫理事が開会のあいさつ。同・一星暁美副課長から「京都府食の安心・安全条例に基づく『京都府食の安心・安全行動計画』骨子(案)」と「第5次食の安心・安全行動計画」骨子(案)について報告があり、意見交換しました。

新日本婦人の会京都府本部、NPO法人京都消費生活有資格者の会、NPO法人使い捨て時代を考える会、NPO法人コンシューマーズ京都、京都府生協連から、14人が参加しました。

京都府食の安心・安全推進条例にもとづく「京都府食の安心・安全行動計画」骨子(案)についての意見

2018年10月24日(水)、京都府生協連は、2019年度～2021年度までの「京都府食の安心・安全行動計画」骨子(案)についての意見を提出しました。

意見書は、京都府生協連ホームページ「資料集・政策提言」欄に掲載しています。

平成30年度第2回 きょうと食の安心・安全意見交換会

2018年10月18日(木)、京都府庁2号館農林水産部会議室で「京都府食の安心・安全行動計画(2019年度～2021年度)骨子(案)」に

第18回 京都府協同組合 役職員体験・交流学校



京都府生協連・高取淳専務理事

2018年9月13日(木)〜14日(金)に開催され、26人が参加しました。

主催は京都府協同組合連絡協議会で、京都府の協同組合(農協、漁協、森林組合、生協)で働く従業員の教育と育成を目的とし、京都府の協同組合の連携、課題を学び、認識を深め合う機会として、毎年開催しています。



コープきんき非食品物流センターを見学

今年も、京都府生協連が企画を担当し、「京都の生協活動について学ぶ」をテーマに開催しました。

一日目は京都生協洛南支部で、京都府生協連・高取淳専務理事よりオリエンテーションがありました。

会場をコープきんき事業連合コープきんき非食品物流セ



京都生協機関組織運営系統・酒向美也子統括マネジャー

ンターに移し、コープきんき事業連合・阪本覚専務補佐より「コープきんき事業連合の概要」について、同・斉藤勝己物流グループマネジャーより「コープきんき非食品物流センターの機能と仕組み」についての講義と、施設見学がありました。

洛南支部に戻り、開校。京都府生協連・高取淳専務理事より開校のあいさつと「京都



京都生協宅配事業企画部・上杉一郎マネジャー

の生協の概況」、京都生協機関組織運営系統・酒向美也子統括マネジャーより「京都生協の概況」、京都生協宅配事業企画部・上杉一郎マネジャーより「京都生協の宅配事業の概況と仕組み」、京都生協・中山義秋指導店舗チーフより「移動店舗の概況と仕組み」について、それぞれ講義がありました。



京都生協・中山義秋指導店舗チーフ

二日目は支部宅配添乗コースと、移動店舗同行コースに分かれ、それぞれ見学しました。二日間の体験・交流学校を



宅配の添乗に出発

とおして、京都の生協の概況や、京都生協の現状や課題、果たしている役割について学びました。参加者からは、「二日間を通し、物流の現場から組合員さんに商品が届くまでの一連の工程が拝見でき、とても貴重な時間となりました」「同じ京都府下で活動する協同組合として体験・交流学校で学んだ知識を業務にいかし、京都の協同組合の連携を大事にして共に発展していきたい」などの感想が寄せられました。



移動店舗の買い物風景



参加者全員で記念撮影

漁民の森づくりに係る育樹活動に参加
2018年10月20日(土)、京都府伊根町太鼓山で、京都府漁協の呼びかけで開催され、110人が参加しました。2000年10月1日に開催された「第20回全国豊かな海づくり大会」において、海・里・山が連携した海洋環境の保全へ向けた取組みを推進することが唱われたことから、漁業者らによる植樹活動が開始されました。2001年から約3500本の広葉樹が伊根町の太鼓山に植樹され、2006年からは育樹活動として、植樹した木々の下草刈りが実施されています。京都府生協連から高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が参加しました。

第30回近畿地区生協・
行政合同会議



関西学院大学人間福祉学部
社会福祉学科・藤井博志教授

2018年8月29日(水)、琵琶湖ホテルにて、「安心してくらせる地域社会づくりをめざして〜誰一人取り残さない社会の実現に向けて〜」をテーマに開催されました。

主催は近畿地区生協府県連協議会。滋賀県生協連・藤田豊専務理事が司会を担当し、近畿地区生協府県連協議会・木田克也代表(兵庫県生協連会長理事)、滋賀県民生生活部・浅見孝田部長より開会あいさつがありました。

厚生労働省・社会・擁護局地域福祉課消費生活協同組合業務室・佐藤敏彦生協検査官からあいさつがあり、つづいて日本生協連・渉外広報本部



京都府消費生活安全センター・企画・啓発担当
田中桜子副主査

渉外部・松本圭司部長から「全国の生協の社会的取り組みについて」報告がありました。

特別講演では関西学院大学人間福祉学部社会福祉学科・藤井博志教授より「地域まるごとささえあう・みんなの居場所とは〜『地域共同ケア』のススメ」について講演がありました。



各府県連報告で、京都からは京都府府民生活部消費生活安全センター・企画・啓発担当・田中桜子副主査と京都府生協連・高取淳専務理事から「京都府エシカル消費推進ネットワークの取組みについて」の報告がありました。福井・滋賀・奈良・和歌山・大阪・兵庫・京都の生協担当主幹部局、および各生協府県連の役員ら41人が出席しました。

京都府生協連からは高取淳専務理事、九鬼隆一事務局長が参加しました。

きょうされん
第41回全国大会 in 京都

2018年9月21日(金)22日(土)、国立京都国際会館で開催。京都での開催は4回目で、京都府生協連は実行委員として参加しました。

大会は「ともに生きる」ともに創る夢ある未来へ「京都から」をテーマに、障害のある当事者、ボランティアをあわせて約5500人が集いました。

大会1日目は、障害者権利条約の誕生を振り返る公開国際シンポジウムや仲間企画を実施。2日目は「とどげます未来へのメッセージを京都から」と題した特別分科会や仲間観光が実施されました。閉会式では大会アピールを採択。来年の開催地である愛知県に大会旗が引き継がれました。



多くの参加者で開催

京都の生協 理事長懇談会



JCA・青竹豊常務理事

2018年9月18日(火)、コープ御所南ビル会議室で開催しました。高取淳専務理事が司会進行し、上掛利博会長が開会のあいさつをしました。

(一社)日本協同組合連携機構(略称・JCA)・青竹豊常務理事より「生協・協同組合の可能性をひろげ地域を元気に」をテーマに、JCAの設立の経緯や日本の協同・連携の事例について講演をいただき、今日的な協同組合の価値・役割について理解を深めました。その後、各会員生協から2018年度の活動課題等について報告があり、意見交流をおこないました。

京都府生協連・畑忠男副会長が閉会のあいさつをしました。

7会員生協から理事長・副理事長・専務理事・常務理事など15人が出席しました。

京都の生協活動功労者表彰式

2018年11月7日(水)、レストラン「おおたや」で開催しました。京都府生協連の表彰制度にもとづき毎年おこなっているもので、表彰の対象となった方は、2017年8月1日から2018年7月31日までのあいだに退任した役員のうち、①役員在任期間が2期以上または2年以上あった方、②特別に功労があったと認められる方、です。

2018年は各会員生協から7人が推薦され、表彰されました。上掛利博会長理事が感謝状を贈りました。表彰式に出席された功労者は3人で、該当する生協役員が同席しました。



功労者のみなさんと記念写真

京都府生協連
理事・監事研修会

2018年9月20日(木)、
コープ御所南ビル4階会議室
において、生協法の知識や監
事の権限と職務など、基礎的
な知識について学ぶことを目
的に開催しました。

京都府府民生活部消費生活
安全センター・濱田佳史専門
幹から「生協検査における特
徴的な指摘事項や留意点」に
ついて報告がありました。



日本生協連
総合マネジメント本部
法務部・宮部好広部長

日本生協連総合マネジメント
本部法務部・宮部好広部長
が1部は生協における役員
(理事・監事)の職務と責任
について講義。生協の機関連
営や法的ルール、非常勤役員
の役割など、生協の基礎的知
識を学びました。2部は監事
監査の基本と実務のポイント
をテーマに、生協がおこなう
幅広い監査対象に対しての監
事監査などを学びました。会
員生協の役職員12人が参加し
ました。

食育シンポジウム

2018年10月2日(火)、
キャンパスプラザ京都で開催。
主催は農林水産省近畿農政局。

近畿農政局・小林博行次長
が開会のあいさつをおこない、
「頑張らないゆる和食のす
すめ ちよつとの工夫で毎日
を健やかに」をテーマに、ゆ
る和食研究家・栗山小夜子氏
が基調講演。次に、「子ども
が学ぶ日本型食生活」をテー
マに、武庫川女子大学短期大
学部幼児教育学科・藤本勇二
講師が講演されました。

藤本氏をコーディネーター、
京都生協・川村幸子副理事長
と京都府連合婦人会・藤原公
子事務局、栗山小夜子氏をパ
ネリストに、「おいしく、楽
しく日本型食生活を実践し、
広めていくために」をテーマ
にパネルディスカッションが
おこなわれました。



京都生協・川村幸子副理事長が登壇

鳥取県産直フォーラム in 京都

2018年10月27日(土)、
龍谷大学深草キャンパスにて
「鳥取の産直牛乳・牛肉の消
費が広がる交流をもっとしよ
う」をテーマに開催されまし
た。主催はコープ牛乳産直交
流協会。京都生協、大学生協、
京都協同食品プロダクト、鳥
取県生協、大山乳業、鳥取県
畜産農協、コープしが、京都

府生協連が参加しました。
基調講演では奈良女子大学
生活環境学部生活文化学科・
青木美紗講師が「消費者と生
産者をつなぐ、協同組合間協
同だからこそこできる産直」に
ついて講演。
鳥取から酪農生産者の真山
健太郎氏、肥育生産者の中山亜
希氏より「生産者から普段取
り組んでいるお仕事のお話」と
して報告の後、グループに分か
れて試食交流をおこないました。



奈良女子大学生活環境学部生活文化学科・
青木美紗講師が講演

GPセンター(鶏卵の選別
包装施設) 現地検査に同行



検査員による厳しい検査

2018年10月12日(金)

の午後から三和鶏園(舞鶴G
Pセンター)にて京都鶏卵・
鶏肉安全推進協議会による現
地検査がおこなわれました。

京都産鶏卵の安全性確保に関
する認証制度にもとづき、適
切に管理され認証基準に適合
しているかを確認します。

協議会の理事、日本食品検
査の検査員による検査に、こ
の協議会の安全審査会委員で
ある京都府生協連・九鬼隆一
事務局長が同行しました。

京都発! 食とみどりの
サイエンスNOW

2018年12月1日(土)、

京都市梅小路公園「緑の館」
で開催。主催は京都府農林水
産技術センターで、今年で10
回目の開催。京都府生協連な
どが後援しました。

京都府農林水産技術セン
ター・原田和也センター長が

開会のあいさつ。研究員から、
京野菜のおいしさに関する研
究、皮ごと食べられるシャイ
ンマスカットの話など、研究
内容の紹介がありました。
京都府生協連からは、高
取淳専務理事のほか事務局
が出席しました。

2018
京都環境フェスティバル

2018年12月8日(土)
(9日(日)、京都府総合見
本市会館(パルスプラザ)で
開催されました。環境につい
て学ぶ参加型イベントとし
て、1992年から実施され
ています。

会員生協の京都生協や、生
協コープ自然派京都が、それ
ぞれの環境商品、取組みの紹
介やクイズを出展しました。
展示物からの簡単なクイズを
出題し、二日間あわせて
1000人以上が参加され、
にぎわいました。



環境に関するマークをさがそう!

生活協同組合コープ自然派京都

〈坂本真有美理事長に聞く〉 (聞き手：京都府生協連合会専務理事・高取淳)

2007年の設立から11年を経て、昨年5月には配送センター兼事務所を新しく久御山町に移転されました。事業・組合員拡大が二桁伸長と、着実に支持を伸ばしている生協コープ自然派京都。

今回は生協コープ自然派京都・坂本真有美理事長と、柴垣千春専務理事を訪ね、お話を伺いました。

高取 設立から11年が経過しました。設立時からお二人はそれぞれ理事長、専務を務められ、広報誌・京都の生協でも設立間もないころにお話を伺いました。(2008年4月)。この11年を振り返られて、それぞれ感想などを聞かせください。

坂本 組合員さんが1万人を超えましたが、新鮮な気持ちで今も活動しています。設立当初から残っている理事は、私と柴垣専務だけです。人が入れ替わってもみなさんの力が蓄積され、「理事会」として成長しており、新しい理事も生協を理解し推進していく力をつけて下さっています。2階に組合員活動室ができたとい

都府生協連やコープ自然派事業連合などから学びながら少しずつ成長してきました。

柴垣 イベントを企画しても人が集まらず開催できないこともありまし

高取 最初の5年くらいは、組合員活動を展開するには、かなりご苦労されたのですか？

柴垣 イベントを企画しても人が集まらず開催できないこともありまし

伝え方をひと工夫

高取 生協コープ自然派京

都はここ数年、事業・組合員拡大で二桁伸長されています。新しい組合員さんを広げる工夫も色々されていると思います。紹介が、いくつか取組みをご紹介します。

柴垣 一人当たりの利用がここ数年伸びています。商品政策には当初より力を入れています。加入のお誘いをするのに以前は戸別訪問が中心でしたが、4〜5年前から戸別訪問スタッフの採用が難しい状況が続いています。今は、組合員紹介を中心とした拡大に力を入れています。

坂本 知っていただきたいことすべてをカタログでお伝えすることは難しいので、それを補うことに力を入れてい



新しい組合員活動室



配送センター兼事務所の前で

ます。テーマごとにパンフレットを作って、大事にしていることを分かりやすく伝える工夫をしており、組合員さんも口コミで広げるときにパンフレットを使って伝えていただけのようにしました。Facebookやインスタグラムでも発信しています。

高取 わかりやすく伝える工夫は大事ですね。その他にもありますか？

柴垣 プチパーティに力を入れていきます。組合員1人がお友だちを2人誘って、家でパーティをしてみよう。数種類のメニューの中から選んで、試食しながら調理をします。組合員拡大が目的ですが、参加している組合員さん



坂本真有美理事長（左）と柴垣千春専務理事（右）

もいろんな商品について生協
コープ自然派が大切にしてい
る事を知ることが出来ます。
実施する料理や調理器具など
は、非日常的な演出を考えた
おしゃれなものにしています。
メニューは季節によっても変
えています。昨年は174回
開催しました。168人が加
入され、組合員さんを含めた
参加者は396人でした。

高取 注文書や案内を見て
もおしゃれに作られていますね。
坂本 かなり頑張っています。
できています。またホームペ
ージを充実するように心がけ
ています。今年に入ってから、
野菜などの欠品の理由が分か
るように、畑のようすを取り
入れたり、商品に関する物語
を載せたりしています。

柴垣 そのほかには、マル
シェに出店して「ミニトマト
すくい」を実施するなど、工
夫しています。今後は、イベ
ントにキッチンカーで出向い
てアピールできたら良いなど
考えて、今、キッチンカーの
製作をすすめています。大阪
や兵庫、四国などではすでに
動き出しています。

組合員が自ら考える

高取 商品政策で大事にさ
れている点についてお聞かせ
ください。

坂本 いろいろあります
が、私の中で一番大事だと思
うのは情報公開です。放射能
検査の情報などをきちんと公
開して、組合員さんが学んで
選択できる目を持ってもらう
ことを大事にしています。学
習会をおこなって、組合員さ
んと共に考えていく。また、
添加物のことや農薬のことを
生産者と対話して一緒に学ぶ
ようにしています。

みんなで活動を広げたい

高取 これからの生協コー
プ自然派京都の課題や計画に
ついてお聞かせください。

坂本 ここ数年、地元でお
米の生産者を探しています。
「田んぼの生き物調査」をし
ており、農薬や化学肥料に頼
らない田んぼにはたくさん
生きものが棲んでいることを、
生産者と一緒に田んぼに入っ
て調べ、生きものと、農業と、
食べもののつながりを実感す
る取組みです。そこで田んぼ
生き物調査米を作ってください
る生産者を探しています。

ズがあると思うのですが、配
送体制が整わず、今後の展開
をどうするか、思案中です。
配送員の確保が最大の課題です。

高取 さまざまな分野の学
習会がありますが、参加が多
い学習会は？

坂本 GM（遺伝子組換え）
の学習会は当初は参加が少な
かったのですが、原発事故後、
食の安全への関心が高まり、
すこく増えました。事故のあ
とはもちろん放射能の学習会
への参加も多かったです。農
産やメーカーなどの生産者を
招いた学習会も参加が多いで
すね。

自覚しながらも進んでいませ
んでしたが、今年から事業連
合で古紙圧縮梱包機が導入さ
れ、商品カタログのリサイク
ルが実現しました。瓶のリユ
ースも組合員のみなさんから
の要望が多いのですが破損の
心配など、難しい課題があり
ます。組合員活動と連携しな
がら京都ならではの「できる
事」を考えていきたいです。
組合員活動室も出来たので
が、交通の便の良い、組合員
が集まりやすい拠点も必要と
思っています。何よりも今の
現状を改善していくには人の
確保が課題です。そのため
も働きやすい環境を整えてい
きたいと考えています。

高取 本日はありがとうございます。

大津市には330
人の組合員がいま
す。週4日火曜
日から金曜日に
配達しており、
一日だいたい
40万の供給高で
す。大津市でも
南のエリアが中
心で、湖西地域
は現在配達エリ
ア外です。ニー

中期計画を立ててビジョンを
決めていきます。今期は「未来
と平和」「暮らしとつながり」
「食と環境」です。それにも
とづき一年間の活動方針をき
めて組合員と理事が意識しな
がら活動しています。

「食と環境」です。それにも
とづき一年間の活動方針をき
めて組合員と理事が意識しな
がら活動しています。

生活協同組合コープ自然派京都

代 表 者／理 事 長：坂本真有美
専務理事：柴垣 千春

所 在 地／京都府久世郡久御山町市田新珠城9
TEL.0774-74-8401

事 業 高／14億9,311万円
組 合 員 数／1万223人
設 立 年 月 日／2007年9月3日

<http://www.shizenha.ne.jp/kyoto/>

京都府生協連 第28回「京都の生協活動を豊かに発展させる協議会」

～組織と事業のイノベーションによる協同組合のあらたな価値の発見・創造の場として～

テーマ 若い世代から見た“生協”とは

2018年10月3日(水)、
コープ御所南ビル会議室で開
催し、役員26人が参加しま
した。



京都府生協連・
中森一朗常任理事(当時)

組合員の高齢化や、働き
手の減少による人材確保や育
成が課題となっているなか、
これからの時代を担う若い世
代の声から、今後の生協活動
を考える事を目的に開催。大
学生協で活躍する生協学生委
員や、大学院で協同組合を研
究している方、地域生協で実
際に働いている学生の方々に
生協に対して感じていること
をお話いただきました。

京都府生協連・上掛利博会
長理事が開会のあいさつをお
こない、同・中森一朗常任理
事(当時)がコーディネータ
ーをつとめました。

生協学生委員の奥富南帆さ
んと、有末奈津子さんが「学
生委員について」の活動や課
題を報告。京都生協店舗アル

バイト職員(大学生)石井春
花さんが「京都の生協につい
てのイメージ調査の結果か
ら」、京都大学大学院の浮網
佳苗さんが「近代イギリスの
生協からみえること」と題し
て話題を提供した後、パネ
ルディスカッションをおこな
いました。

参加者からは、「日頃聞け
ない学生さんのお話を聞け
て、若い方の考え方を参考に
したいと感じました。活発な
交流もできてとても良かった
です」「大学生協と地域の生
協の接点があればいいと思っ
た」などの感想がよせられま
した。



パネルディスカッション

おもな行事のお知らせ

京都府生協連と各会員生協の相互連絡通信訓練

日時：2019年1月17日(木) 7:00～10:00

第29回 京都の生協活動を

豊かに発展させる協議会(KSK)

日時：2019年2月5日(火)

13:30～16:30(予定)

会場：コープ御所南ビル4階会議室

テーマ：「シニア世代と生協」(仮題)

2018年度きょうと食の安心・安全フォーラム

日時：2019年2月7日(木) 13:30～15:30

会場：京都府庁職員福利厚生センター3階会議室

テーマ：「知って安心 食べておいしい 京の食」

謹賀新年

旧年中はご支援・ご協力を賜り、
ありがとうございました
本年も、みなさま方とごいっしょに、食の安全・くらしの
安心をめざし、邁進してまいりたいと存じます
どうぞよろしくお願い申し上げます

二〇一九年 一月一日

京都府生活協同組合連合会

会長理事 上掛利博

CO-OP

発行：京都府生活協同組合連合会
TEL 075(259)1591

〒604-0857 京都市中京区烏丸通一条上る時絵屋町258番地

コープ御所南ビル4階
E-mail: kyotofu-seikyoren@ma2.seikyone.jp

URL: http://www.kyotofu-seikyoren.com